

戦評用紙

平成30年度 関東高等学校バスケットボール大会埼玉県予選会

平成30年5月18日

会場 越谷市立総合体育館 コート 第 4 試合

性別 女 準々決勝

| 対戦カード | 埼玉栄高校 | 22 | — | 12 | 県立朝霞西高校 |
|-------|-------|----|---|----|---------|
| TOTAL | 87 | 30 | — | 18 | 51 |
| | | 21 | — | 6 | |
| | | 14 | — | 15 | |

準々決勝の第3試合は新人戦で悔しい思いをした埼玉栄高校と8シード校を倒して勝ち上がってきた朝霞西高校の戦いとなった。スターティングメンバーは埼玉栄6、7、11、12、16で朝霞西は5、6、9、11、18だった。

お互いにハーフマンツーマンでゲームが始まる。ゲーム序盤は緊張からかお互いに攻めるも得点に繋がらない時間が長かった。しかし第1P中盤から朝霞西は11のハイポストからのドライブや9の1対1で得点を重ねる。埼玉栄は7のドライブから合わせや11、12の1対1を積極的に仕掛け、得点を重ねていった。徐々に埼玉栄が積極的に始めたところから流れが変わる。12のインターセプトから朝霞西のファールを誘い、早々にチームファールが超えてしまう。そこから埼玉栄は更に1対1を積極的に仕掛け、11のポストプレーからカウント1スローを得たり、3Pで勢いづいた。ファールができない朝霞西は粘るものの要所で埼玉栄にオフェンスリバウンドを取られ、苦しい状況となってしまった。埼玉栄は途中から交代した8が効果的にミドルシュートを決め、更にチームを勢いづかせる。第2Pになっても埼玉栄の勢いは衰えず、すかさず朝霞西はタイムアウトを請求する。その後も朝霞西はリバウンドを取られ、苦しい時間帯となる。しかし、朝霞西も替わった18が1対1から得点し、意地を見せた。お互いにファールが多くなる時間帯があったが、埼玉栄は8が随所に1対1を仕掛け、朝霞西のペースにさせなかった。前半は朝霞西にリバウンドを取られてしまうことが多かったが、ハーフタイムにベンチでは先生から熱く気持ちのこもった激励を受け、後半に気持ちを切り替えた。第3Pもお互いにハーフマンツーマンでスタートする。後半に入っても埼玉栄のリバウンド力は落ちず、優位にゲームを進める。第3Pの中盤から埼玉栄はディフェンスでダブルチームを積極的に仕掛け、朝霞西のミスを誘うようになる。朝霞西はシュートまで持っていけない時間帯が長く、苦戦する。しかし、1対1や5の3Pで応戦した。第4Pはお互いにディフェンスを積極的におこない、相手に主導権を握らせない。しかし朝霞西はボール運びでミスが出てしまう。得点が取れなくてもお互いがディフェンスを頑張る時間が長くなったが、第3Pまでの得点差が響き、埼玉栄が勝利した。

序盤から埼玉栄にリバウンドを取られてしまうことが多かったが、気持ちの入ったハーフタイム以降、朝霞西のリバウンドとルーズボールを追う姿にシード校を倒してきた意地と執念を感じることができた。

(記録者: 滑川総合高校 細川久美)